



関ヶ原軍記

二編 十五

十六

遠 13  
2207  
23



遠 13 時  
 編 2207  
 巻 23

凡士農工商も夫々の職分家業を固て持用の只物を言ふ  
 今日を言む夏世畧一般の然るに近世写本の巻中小柳の白紙  
 何れ種のの書入又、秋の覺束のき、本偶人、刺見、草  
 男女の陰癖を、画き、君臣父子の中や、画と赤め合事  
 同く多し、是第、必竟一時の興、子象、ての戲、ま、え、り、係  
 其職分、此道具、疵、付、り、小、餅、と、り、著、述、抄、筆、者、の、偽、り  
 何れも、只、言、語、と、い、く、其、遇、ち、と、各、免、卷、中、の、戲、画、樂、書、等、繪  
 池田屋常次是を歎然然不復得、固て系代りて諸君子所、ある、爾  
 磨石山人識

和 漢  
 貸本所  
 東京牛込細工所  
 誠光堂  
 池田屋清吉



関ヶ原軍記式編卷之拾五

目錄

- 一 波身薙城の事
- 一 并陣中手配りの事
- 一 一行が鼻肩博打原生害の事
- 一 并大手合銭津田猛常と形り
- 一 吉村と鉢ヶ事

牛  
池清

園ヶ原軍記武篇卷之拾五

破年城籠城の事

并城中手配りの事



曰く申納言秀信より江渡村の

合戦より赤負け入城して是

を軍評定殿より籠城し極

手配りして捕籠る部て福

碓細川尾田及堂井伴お惣  
軍三万余人行ヶ鼻とせり  
破年城に押法池田も新水  
納乃いりて千後利して破年  
城を押法福徳が衆人吉村  
大碓りて接群しめて博  
津田中嶋本造等が新骨城  
しりて七曲り此末を

責破りぬるの良池田演押等  
地下に放りて支くられ地  
年及を瑞勢山千をつ鬼  
良刻押法池田輝政を城の裏  
水の手より攻入り本城一番  
急よ藤を立りて福碓  
正刻進手を破りて放火する故  
城急一をんにお極まる期く

秀伝運端ちかやりて降参くだりまゐ候仍なほて  
福崎ふくさきが手に讀取よみとり野水のみのみづ網あみも生な  
挿さすく流石りゅうせきの塔たも忽たちち小  
落お城しろもこれ海うみ一ひとり秀伝ひでゆき悪将あくしやう  
して生な根ねえと矢やる力ちからも名な  
あうり  
中なかつ洲しゅう言い秀伝ひでゆきを織お回まわ信しん長ながの  
婿むこ孫まごとして長なが名なをせり言い

くそ所ところ急いそぎ重かさねて文学がくの才さいも  
少すくしこれあり年とし舌したも務つと  
ましく胃い振び能のうく威い光こうを有あ  
て過あや分ま急いそおと足あしもらさく  
たうらぬたうらあうらる  
うの急いそ急いそなふぬりての大おほい  
子こううううううううお遠とほし  
て大おほ能のう病びやうと集あり平ひら生せい利り



胡瓜白瓜も抑たり香の  
物も毛るべ掃海へさ  
るくく入行布どち心さく  
気か割く見苦ぬとも其  
風味よくき宝ゆき  
き人も用ひ奔走も法  
ば人間毛るふ布どき骨力  
てもうあ〜ん一志ん

極むらり福録毒のくは人  
の小兵也地々大職  
官余りふ夫絶く冠り此  
く掛わぶらゆ急務官ある  
屋ぶのともあつ天小折云  
く一巻の内く路く二天程  
延たりけふ千冠りと敷き  
てき友くのぢり智づん

明<sup>めい</sup>心<sup>しん</sup>して法人<sup>ほうじん</sup>居<sup>い</sup>法<sup>ほふ</sup>寺<sup>じ</sup>法<sup>ほふ</sup>  
る時<sup>とき</sup>の胃<sup>い</sup>振<sup>びん</sup>平<sup>へい</sup>の寄<sup>よ</sup>るべし  
ては生<sup>せい</sup>智<sup>ち</sup>恵<sup>ゑ</sup>法<sup>ほふ</sup>寺<sup>じ</sup>の寄<sup>よ</sup>るべし  
申<sup>まを</sup>綱<sup>なう</sup>言<sup>ごん</sup>秀<sup>しゆ</sup>信<sup>しん</sup>る是<sup>こゝ</sup>南<sup>なん</sup>の口<sup>くち</sup>上<sup>じやう</sup>  
る為<sup>ため</sup>極<sup>ごく</sup>神<sup>しん</sup>妙<sup>めう</sup>之<sup>こゝ</sup>より人<sup>ひと</sup>ども  
心<sup>こゝろ</sup>中<sup>ちゆう</sup>の太<sup>たい</sup>極<sup>ごく</sup>病<sup>びやう</sup>あり  
去<sup>き</sup>るべし中<sup>ちゆう</sup>綱<sup>なう</sup>言<sup>ごん</sup>秀<sup>しゆ</sup>信<sup>しん</sup>る是<sup>こゝ</sup>南<sup>なん</sup>  
ノ堂<sup>どう</sup>乃<sup>の</sup>りくさるふ亦<sup>また</sup>面<sup>めん</sup>け極<sup>ごく</sup>中<sup>ちゆう</sup>

川<sup>か</sup>入<sup>い</sup>り生<sup>せい</sup>本<sup>ほん</sup>博<sup>はく</sup>の殿<sup>でん</sup>中<sup>ちゆう</sup>へ  
在<sup>あ</sup>長<sup>ちやう</sup>木<sup>もく</sup>造<sup>ぞう</sup>左<sup>さ</sup>邊<sup>へん</sup>の佐<sup>さ</sup>百<sup>ひやく</sup>交<sup>かう</sup>執<sup>しやく</sup>前<sup>ぜん</sup>馬<sup>ば</sup>  
津<sup>つ</sup>回<sup>わい</sup>及<sup>およ</sup>左<sup>さ</sup>邊<sup>へん</sup>の父<sup>ちち</sup>子<sup>こ</sup>申<sup>まを</sup>綱<sup>なう</sup>物<sup>ぶつ</sup>惣<sup>そう</sup>左<sup>さ</sup>の  
父<sup>ちち</sup>子<sup>こ</sup>その布<sup>ふ</sup>信<sup>しん</sup>代<sup>だい</sup>恩<sup>おん</sup>願<sup>げん</sup>の物<sup>ぶつ</sup>類<sup>るい</sup>  
法<sup>ほふ</sup>寺<sup>じ</sup>の寄<sup>よ</sup>るべしありあつめて盡<sup>じん</sup>法<sup>ほふ</sup>  
寺<sup>じ</sup>の寄<sup>よ</sup>るべしありあり今日<sup>けふ</sup>を  
法<sup>ほふ</sup>寺<sup>じ</sup>の中<sup>ちゆう</sup>条<sup>じょう</sup>と取<sup>と</sup>りて  
是<sup>こゝ</sup>南<sup>なん</sup>の口<sup>くち</sup>上<sup>じやう</sup>の教<sup>きやう</sup>心<sup>しん</sup>よりあり



級軍一々の隻骨随子通つて  
海島也柘那も大長信長公の  
嫡孫として父の城も御信忠の  
弓矢ももつての日本一と云ふ  
以家部もてま交も不覚の名  
成るべし柘那に日れんも  
いふる人を部のごと記級その編  
子父祖の名も揮も部の人

る死もて子時も死せざれば  
一と云ふり今の足徳城きり  
よりむと子南城をま  
とて生家もて子あり柘も  
西もて子ありとて我と  
一所も討死して後代も名  
城のそ原べし今この城も日持  
るる時も石田礪津小西



臨んでいゝ毒と冷獺おそろしく  
従ふるといふ病ひよふ竹皮も  
叶りては手平赤星内儀といふ  
倭奸の大悪人津例し有る  
後言とお構ゆる有る相づん  
一交よかきりて一交あり明日小  
あゝおくりの殿と御ころあつと定り  
られるむじりんく 身命と扱

うつゝと鉄丸はくすゝといふ  
秀信大ひ平袖玉ひ明日お限り  
ていそ飛し討丸とお構むべし  
さうば言却の酒宴せんといふ  
守子てさうづまをいひてのち  
さうて手紙りとも成しつりら  
先山下れ御殿はさう津田度者  
弟の父子総下新名とも二子余

人麿垣一重引きく二万虎  
口とおきり又七曲り口より木造り  
左邊の焼二百余騎志直谷乃  
口より百度敵前を荒神が洞よ  
の籠中を習れさうぐい乃赤星  
内銀鏡軍將きくおきり次  
又上木戸の千の申崎惣左邊の  
瑞穂山より石田が加勢川瀬左

るく介 梶原彦左衛門郎左衛門  
ぬ子余騎席口より籠る中  
遠るく人 兼中を糧とを山隈  
一志ありくく大おの下知城あり  
當城城権きくくちりドあと  
是懐ときさるあれん中  
し子 彌宮塔を乃撤千天暗  
ゆきまのりさる容易くは



城身茂を渡らんといふに  
竹ヶ鼻に城を松原又左衛門  
村守左衛門毛利掃部太川西  
平芝去手と繁記その新し  
大筒城ありて人園東勢中  
見し一城は此の川井併直政  
の巻長木後古佐川下と順見  
して渡り場をとりりか登井

むしれ前よりその里の民  
衆と器を渡りて大軍  
のさしは渡りて勢を勢を  
見て堤を築く毛利掃部太  
軍急と引くありて城中つ  
む志しに福崎正則先陣  
園東勢稲麻のたしと名園  
むよつと二乃丸に城をたす

悉く福嶋より降参す此浪人  
た尋手子千如よりて本丸を攻  
つらつこの時幸丸より松原又  
左衛門の武士日づらに三指め騎  
難乞武百余人をして楯こりりと  
つたに旨八めんとも有毛ころ有  
叶の登紀やもあつりけり  
あつりころつたに御家望あるん

ばまゝい急も扇城七の辰の事  
刻より申此ころまで鉄砲を  
まゝくあつて攻められたる  
松原又左衛門の生害はころつて  
撤す大をうけ竹が鼻の扇城  
よ及びつりこのせり我が網  
よあゝく池田輝政後利より  
中來る福嶋日下をれをいふく

大の千一いつり今日致るひ千  
り色つら車こそ安うねる色  
偏池田が約と爰とら故  
るりその城千おあくわ明日  
の城責ふらうあ手此面く  
手とむるくせんとも  
病才一二三の園城取りでを  
城焼くひ骨此中くち廊境

千陣一廿二日の未明千押  
出くく無二子三は彼年の  
城下は押つり福嶋正刻先陣  
して苗むくくをらちるるね  
るりこの新よそ福嶋をくえ  
この定めるん若その約と遠  
くお景をせむ福嶋が水人  
振田野々福嶋福嶋先登



て彼年此城下と燒拂りんと  
云ふ子吉村又右邊の南を  
うりて城を破るの工又よそ  
主人正則のりと叫きこぶるに物  
とりの子福島の衣ものゆかり  
建波年の城下と敵を討つる  
城下やちより子の軍法を告むるが  
工又あり既もとく福島正則の八子

余人黒田細川に千又百余人  
却令一万二千五百余人を大將  
と三人をとりて常氣を  
りんくより急いそぎて一乃先せん  
陣ちんるに福島勢をひくと  
おそくそくそや惣そう捕とらへる麻あ  
垣かき押おしやぐり一手に軍を圍くわり  
急いそぎを揚あげ攻こうらる吉村又衣

集つが一値くきとや山下湯殿  
手押造り地ととととつは河  
後たつ日く嬌子及三所新  
名にぬ百人とと下知一銃炮  
おせ大石投うけくお階ぐ  
あうりとりく者福崎勢のいやが  
し干出くしうり及く津田及三  
席の隠るるた大力量此別の者

とて追手此大おありーが細威  
一のふあひよ赤母衣をうけ  
船立斗りのありさうぬ干く  
二男柄乃大所此銃攻戸穂乃如  
く振としてうり来る款を  
坂口の岩角と足がうして  
実所まそのる路を備へ  
和名の人多る名をきん限身

武者拾騎斗りてと突所を依  
て勢をいせしき急し吉村又  
右集つても業て知しとら万丈不  
尚れ骨士とせ増勇敵のあり  
さぬうれるふさぬも吉村が  
手れ軍念及と突所させく  
そのまゝに急やさうと馬より  
飛びり急所おどけらぬ心

よて上帯とせりしとく  
九天の手許の強さを持く  
坂口小踊りしりし津田も  
急所の骨士あれば出物見せん  
や強えのづく突いざら吉村  
と強槍をいしと急うけ  
強もうをいしと急うけ  
よて強うたしとら及三郎も

岩角城端く令別力といふ  
一 ありきととおもひて  
吉むしとそとらんをりて  
や川と剣らん津田ま吉村  
まねらきく極く岩角城  
少き部一色谷一落さん  
しりきりし又大毒つが御  
ゆ通たれ鬼神れとくあり

これと見く福崎が赤人尾  
石見大崎吉草可児文藏  
大橋辰大毒つ等危竟の者  
志さ記千をんで仁王の  
く英士掛く板口と  
る津田辰大毒つこれと見  
子の時うく程病千あり  
ねども子息辰二席が討

ゆへんがそのととてあつたその  
討死の中洞云及乃控病使  
形りそのととて新地を築く  
大ふりありと古率とをげます  
とて之を及之席がうちド又  
成しての先陣はまらる人るまに  
とてあつたそのととて新地を築く  
是れがそのととて新地を築く

とれを能り山下湯殿の板は  
の破れり新地を築く  
池清

実々京軍記二編巻の十又新地を築く  
池清

池清

関ヶ原軍記武編卷之拾六

目録

- 一 木造左清の佐退手と防ぐ事
- 一 并福崎勢鬮戦退手と急取事
- 一 吉村又右衛門の破舟の町原に火攻
- 一 撤す事
- 一 并池田輝政水乃子曲輪へ押詰る事

池清

関ヶ原軍記武篇卷之拾六

木造左衛門依退手<sup>あつて</sup>決<sup>え</sup>階<sup>た</sup>ぐ復<sup>た</sup>  
并福高<sup>ふくたか</sup>辨<sup>わん</sup>常<sup>じょう</sup>親<sup>おん</sup>退手<sup>あつて</sup>と<sup>と</sup>案<sup>あん</sup>

名事

去程<sup>きょてい</sup>中<sup>ちゆう</sup>既<sup>い</sup>平<sup>へい</sup>退手<sup>あつて</sup>山下<sup>やまの</sup>清<sup>せい</sup>殿<sup>の</sup>  
坂<sup>さか</sup>口<sup>ぐち</sup>破<sup>やぶ</sup>退<sup>あ</sup>手<sup>て</sup>の<sup>の</sup>大<sup>おほ</sup>山<sup>やま</sup>の<sup>の</sup>氣<sup>き</sup>  
決<sup>けつ</sup>場<sup>ば</sup>攻<sup>こう</sup>らる<sup>らる</sup>や<sup>や</sup>坂<sup>さか</sup>口<sup>ぐち</sup>中<sup>ちゆう</sup>決<sup>けつ</sup>

押おし上あかよりこのせり木造左集  
つ依手辨まつま百八十人  
版ばん回かい十じゅう左さ集しゅうの 和わ回かい孫まご吉きち丈ぢょう産さん  
回かい苦く三さん席せき 生せい約やく平へい三さん席せき 併へい  
度ど長ちやう八はち大だい園えん物ぶつ 東とう回かい孫まご左さ集しゅう  
つ大だい神しん号ごう八はちおおままれれ健けんううちちううる  
りのども強きやうをを拵しやうくく園えんのの声こゑをを  
ああ番ばん大だい山さんええ岩いわうううう如ごとくく山さんと

よりお下くだ次じ志し先せん平へいををんんぶぶる  
者ものたたのの志しりり房ぼうささんん封ふう免めんははらら者もの  
三さん回かい拵しやう人にん既すで小せう木もく戸こ口くちとと追おひ返かへ  
よりこの時ときのの申まをしし破やぶららるるまま  
拵しやうををるる志しりりにに細こ川がわ城じやう中ちゆう  
る乃の軍ぐん士し法はふ邑い文ぶん次じ席せき先せん免めん産さん  
して拵しやうををちちよりより木もく戸こ向むかひひのの方かた  
へ賣うららるる又また福ふく崎さきがが軍ぐん士し不ふ見み也や



鹿 吉村又右衛門 大橋辰左衛門  
木茂亮ののり山の中腹  
のむら場を攻らるるおと  
うらそ木造下知して一寸も  
退らば此とらると破れぬる  
前陣より及ぶる一と粉骨戦  
養らるるお合より時り故  
中務惣右衛門の大常別所力者

みして三男柄の陰を以て方  
とらるるお執らるる中ら南  
なる振もぬく見らるるに細川  
が衆人浜村又次郎の勇義  
者よりども強の素人あり  
を骨細く力量を無しと  
りて其を双方の曾士と申  
渡り合は浜邑より来る強の上

よく物心な備つが洞中と強く  
突より志ありさう丸中橋が  
急しあらわい原路の程のく  
二股まのくれば中へ海へ  
よりくち刀打のときより  
おのきとせと色よりけ時女次序  
の小急るれき走りきりて中橋  
より急と急むされき物心な備つ

大力は古念るれは沢村次郎依也  
く首次郎とくしきりて  
いりのるく振よりけん小急  
よそののんとと突よりけ手  
急むとととつと削  
首と取しや通れ急双の働  
このせり模合よりして  
て吉村又衣染の先陣あり後

崎が衆人振四利女星體又八  
お其外二十騎斗りと励まうて  
木造城の中へ引取りしを  
お其外を立切く、竈立ちの衆も  
細川賢進子の七曲り口より  
福崎野を引く一面に抑ふる  
この時城を版張十左衛門と  
とて飛越のさぐらひ討死

しりり本造を城中に安内  
能く知りしんば廻りあぐり  
戸門へ引入りしを丸をとり  
うしあしりし木戸の内を  
に續ひく大ふれ場あり  
城の安否のころあつたり  
おとて山ふの城を揚木戸  
つと大切なりし事あり地

形せむら紀ゆゑ 寢賣のつそをぬり  
がごとく上は釣揚あかく志とみみの  
如く急ま取の時を牆まと守る極  
ふ結いをさるるり眼ままこの門  
城下りころふ急いの急あり  
ころりつろくこれ下り切  
せ又右邊の急ま後見くは木戸  
城立切の時を以方谷ま留りし急

申し急城をさるるり  
と走り急つろく門の下り急ま  
手とり脊中より大戸をのせ  
く手とり急ま回つ急まるつて  
急後戸をさるるり  
ころり急ま切つ急まるるり  
急ま破まき急まるるり  
急ま双の大力あり急まるるり

不敵乃吉村ありこの時尾実  
大時不忠お城始り包むより  
木戸此戸をくくり入れは細川  
の衆人おも追々このころ  
を潜り抜へり城中にも警破  
やこの口と破々色てわ叶あまじ  
と色をと失ちひ終初を併し  
城人の吉色も具是乃くへん

廊の守り喰入く馳坂の廊  
不忠女藏 去尾隼人等石段持  
来りて槍とる 吉村を殺し  
いざ次郎て此木戸の門の扉  
破れより後く福嶋 細川 如  
及おが軍をた一時に追ひて  
この丸の平ららととる

名入まんとしけるに本城  
つぎまたら櫓門ありびくき  
堀をりりりしが改手更急  
するりく武士をてん承く  
階ぬるりり吉村又志事の  
この口より名守九尺をりり此  
ととらりと踊り入るとすふ  
此石垣を山ふの城ゆは口の

大お申碇傳志事の櫓つり  
あつり色大所の碇とて実の  
まも吉村志事と振りて君遠  
よそ勝負叶りたふりく出  
一勝負と碇乃柄をとたぐりて  
らる時申碇も知まのりそ  
ども碇部しそ石垣ありり  
あつりりんば孫事吉村志申碇

城をく依せり首と討あり  
は内之長尾集人の矢倉の上よ  
のりんとすら干物川治所  
を掃却及物志掃つ立あり  
り色長尾が山城向くあがり  
ととろりとも無の石倉と突んと  
しりらが突換して唇城つ我  
たり依くはきでよ咽へんと

はるる時長尾を止齒ぎりして鏝  
城咽へ入るるを鏝をたぐり  
下さんと決らん武つのある  
よて急具をよるる車に砲之  
依く城を毛敵をどとせらる  
手敵の鏝を継り長尾の二剣  
干踊りしりて物川を総伏首  
とあるそと亦二三騎矢倉の

下に羅<sup>ろま</sup>房<sup>ぶ</sup>あまのりきんひと  
尺<sup>しち</sup>く<sup>く</sup>矢<sup>や</sup>倉<sup>くら</sup>此<sup>こゝ</sup>歌<sup>うた</sup>兵<sup>へい</sup>若<sup>わか</sup>き<sup>き</sup>子<sup>こ</sup>孫<sup>そん</sup>  
を<sup>を</sup>飛<sup>と</sup>下<sup>くだ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>遊<sup>あそ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>矢<sup>や</sup>こ<sup>こ</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>時<sup>とき</sup>よ  
吉<sup>きち</sup>村<sup>むら</sup>又<sup>また</sup>右<sup>みぎ</sup>邊<sup>へ</sup>の<sup>の</sup>橋<sup>はし</sup>も<sup>も</sup>上<sup>かみ</sup>り<sup>り</sup>狭<sup>せま</sup>馬<sup>ま</sup>  
城<sup>しろ</sup>む<sup>む</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>上<sup>かみ</sup>の<sup>の</sup>ご<sup>ご</sup>ん<sup>ん</sup>こ<sup>こ</sup>自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>此<sup>こゝ</sup>  
さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>物<sup>もの</sup>を<sup>を</sup>振<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>り<sup>り</sup>是<sup>こゝ</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>て  
後<sup>のち</sup>時<sup>とき</sup>細<sup>こ</sup>川<sup>がわ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>此<sup>こゝ</sup>徳<sup>とく</sup>大<sup>だい</sup>お<sup>お</sup>も  
ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>や<sup>や</sup>房<sup>ぶ</sup>城<sup>しろ</sup>手<sup>て</sup>及<sup>およ</sup>び<sup>び</sup>こ<sup>こ</sup>り<sup>り</sup>空<sup>くわ</sup>

一<sup>いつ</sup>時<sup>とき</sup>千<sup>ち</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>月<sup>つき</sup>平<sup>ひら</sup>後<sup>のち</sup>田<sup>た</sup>原<sup>はら</sup>流<sup>なが</sup>き<sup>き</sup>清<sup>きよ</sup>  
時<sup>とき</sup>多<sup>おほ</sup>き<sup>き</sup>集<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>心<sup>こゝろ</sup>と<sup>と</sup>走<sup>は</sup>り<sup>り</sup>上<sup>かみ</sup>り<sup>り</sup>て  
敵<sup>かたき</sup>大<sup>だい</sup>を<sup>を</sup>成<sup>なり</sup>し<sup>し</sup>孫<sup>そん</sup>手<sup>て</sup>遊<sup>あそ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>意<sup>い</sup>を<sup>を</sup>え  
り<sup>り</sup>

吉<sup>きち</sup>村<sup>むら</sup>又<sup>また</sup>右<sup>みぎ</sup>邊<sup>へ</sup>の<sup>の</sup>岐<sup>まが</sup>阜<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>赤<sup>あか</sup>火<sup>か</sup>  
城<sup>しろ</sup>掛<sup>か</sup>多<sup>おほ</sup>き<sup>き</sup>事<sup>こと</sup>  
每<sup>ま</sup>池<sup>い</sup>田<sup>た</sup>輝<sup>ひ</sup>政<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>手<sup>て</sup>曲<sup>まが</sup>輪<sup>りん</sup>押<sup>お</sup>浩<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>度<sup>たび</sup>



曰く池田輝政 後野寺長此  
支将<sup>まさ</sup>勝<sup>まさ</sup>り<sup>り</sup> 志士<sup>しし</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>む<sup>む</sup>る<sup>る</sup> 變<sup>ま</sup>  
鐵炮<sup>てつぱう</sup>矢<sup>や</sup>叫<sup>こゑ</sup>の音<sup>ね</sup>頻<sup>しん</sup>也<sup>なり</sup> 依<sup>よ</sup>  
福<sup>ふく</sup>崎<sup>さき</sup>亦<sup>また</sup>多<sup>た</sup>城<sup>じやう</sup>責<sup>せき</sup>せ<sup>せ</sup>る<sup>る</sup> 人<sup>ひと</sup>籠<sup>かご</sup>  
城<sup>じやう</sup>を<sup>を</sup>少<sup>すく</sup>同<sup>どう</sup>時<sup>じ</sup>に<sup>に</sup> 城<sup>じやう</sup>を<sup>を</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup> 浩<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>を</sup>す<sup>す</sup>  
時<sup>とき</sup>も<sup>も</sup>急<sup>いそ</sup>ぐ<sup>ぐ</sup> 吉<sup>きち</sup>村<sup>むら</sup>が<sup>が</sup> 軍<sup>ぐん</sup>法<sup>ぽう</sup>と<sup>と</sup>して  
町<sup>まち</sup>を<sup>を</sup>放<sup>はな</sup>す<sup>す</sup> 一<sup>ひと</sup>に<sup>に</sup> 志<sup>し</sup>士<sup>し</sup>を<sup>を</sup>燃<sup>も</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>  
四<sup>よ</sup>方<sup>ほう</sup>に<sup>に</sup> 充<sup>み</sup>満<sup>まん</sup>して<sup>して</sup> 進<sup>しん</sup>む<sup>む</sup>る<sup>る</sup> 結<sup>むす</sup>

を<sup>を</sup> 浩<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>を</sup>す<sup>す</sup>  
に<sup>に</sup> 瑞<sup>みず</sup>勢<sup>せい</sup>山<sup>さん</sup>乃<sup>の</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup> 志<sup>し</sup>士<sup>し</sup>を<sup>を</sup>燃<sup>も</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>  
乃<sup>の</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup> 志<sup>し</sup>士<sup>し</sup>を<sup>を</sup>燃<sup>も</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>  
加<sup>か</sup>勢<sup>せい</sup>此<sup>こゝ</sup> 城<sup>じやう</sup>を<sup>を</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup> 志<sup>し</sup>士<sup>し</sup>を<sup>を</sup>燃<sup>も</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>  
討<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup> 池<sup>い</sup>田<sup>でん</sup> 輝<sup>き</sup>政<sup>せい</sup> 城<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup> 境<sup>さかい</sup>を<sup>を</sup>  
取<sup>と</sup>り<sup>り</sup> 浩<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>を</sup>す<sup>す</sup>  
浩<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>を</sup>す<sup>す</sup>  
志<sup>し</sup>士<sup>し</sup>を<sup>を</sup>燃<sup>も</sup>や<sup>や</sup>す<sup>す</sup>

室中。有り候。く。後。し。の。者。を  
好。し。是。放。中。無。事。在。後。よ。武  
番。季。よ。放。つ。事。千。年。後。急。の  
中。之。期。で。秀。信。よ。の。降。集。地。乞  
う。う。ふ。う。う。く。福。嶋。か。子。に。生  
捕。新。如。納。く。持。子。獄。を。破。身。博  
う。う。房。う。う。り。二。乃。城。季。年。編。く  
及。ぶ。志。う。う。り。う。う。之。在。福。嶋。一。番

よ。お。極。う。う。ら。ま。お。う。う。り。ま。ま。と  
存。く。持。う。う。り。は。藤。石。田。方。より  
此。後。信。の。勢。は。後。千。う。う。づ。る。武  
田。及。臺。田。中。生。約。等。相  
う。う。う。う。う。て。持。利。と。均。う。う。り  
池。田。輝。政。と。概。季。一。と。ん。之  
と。う。う。之。在。放。大。る。形。も。急。う。う  
武。番。千。放。う。う。の。近。頃。孫。急。の

るありや仰して放火也  
引しつらと正身にして  
人欲の迷ひ平能あ人と  
して利欲のころあれたと  
いふるあり一志うんをそ飛  
をば無く<sup>た</sup>なる事あつり  
つひごとくも<sup>つ</sup>時<sup>つ</sup>こころ  
のころも<sup>つ</sup>常<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>重<sup>つ</sup>なるあは

二五  
りのあり大概あり<sup>つ</sup>も<sup>つ</sup>結<sup>つ</sup>有<sup>つ</sup>る  
時の必<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>利<sup>つ</sup>欲<sup>つ</sup>あ<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>  
して身と<sup>つ</sup>言<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>あ<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>人  
と<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>貧<sup>つ</sup>苦<sup>つ</sup>の時<sup>つ</sup>今日<sup>つ</sup>乃<sup>つ</sup>願<sup>つ</sup>を  
凌<sup>つ</sup>ぎ<sup>つ</sup>急<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>能<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>御<sup>つ</sup>さ<sup>つ</sup>身<sup>つ</sup>上<sup>つ</sup>也  
ゆらかりして来る時<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>心<sup>つ</sup>  
を<sup>つ</sup>欲<sup>つ</sup>心<sup>つ</sup>起<sup>つ</sup>り<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>人<sup>つ</sup>欲<sup>つ</sup>  
や<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>重<sup>つ</sup>銀<sup>つ</sup>手<sup>つ</sup>重<sup>つ</sup>なる<sup>つ</sup>也

日頃骨折ひごろたるものあり  
まゝ半多し一人欲ひとをよ  
くくと志して形かたちの是  
復たがひする所の是まづよく  
人習まなれ迷まよひあり流ながる可  
良よ好このたる池田輝政いけだをへる  
とびのつぎん糸いとをよとれり  
卒つひそりんや志こころよくばは軍い

功いさの責せきたる當あた城しろ城しろカカ終つひる  
をよそのころ有あり也なり急いそ  
却かへつて二青ふたあおたる故ゆゑりり地  
をよ者ものも人ひとたる者もの能あたる  
はるる者ものも人ひとたる者もの能あたる  
是こゝ能あたるく日ひもよめく種たね  
よくまゝ子こ車くるまとおんた  
るまあり馬うまをよとる吟うたねく

命と落し一人を欲し喰れ  
く一命と落しを思ふる  
貪欲あり

新く慶長八年八月廿二日此  
新毛殿下明海人ともなる頃  
池田之左衛門尉輝政 本多中  
將古備忠孫下知成つて之て籠  
城りし一押つりんと惣軍

一里余り押出次時千をや新  
も以放きしる廊破年の城下  
子あつてく鑄炮の音震動し  
て矢叫び此と急處し相  
争ひさすていさや福崎を援け  
して押詰るやめんく援  
も形りの有と志すたし後世  
堀尾を始めしして永先みと

るともや城下千部とて  
むらひと見れを早山下清庵の  
前を執りひ室中取りあつて  
いふく籠ををめんとするふ  
兼く吉村又衣場つが下知千  
よつて池田家此籠見あると歸  
時千波年の町屋く火をくけ  
よりきもくこの西をえ来

徹回信長在城以後神部信孝は  
流の國人の守備職として尚城  
居候せらるるや、籠菜眼よ余り  
早家教多千部も建續きし雨  
より志るる千部世せり一時千  
火を撤しり折るる水風ふき  
来りく猛火四方に飛ちり思  
煙り天をくぐり山風吹落て

向ふ凡此耀りを階ぐよ便り  
あり地田涉程が軍乞及逢育  
をうしあひ一寸も先くはさみ  
ゆんそ飛子おらるんして馬を  
ひくより依く福崎育を乞  
易く撤責を成まこれに乞  
吉村掌法いさどまゆかあり  
志るに浪野幸長を斬解以来

いさ功者なり破年此撤  
限るやうに瑞穂山周懐  
山の紫城攻破らんと二余騎  
鯨波を揚く長付に攻めつる  
層しと押するふ井作重政を  
恙くこの周懐山の陥り  
是を破り涉程が軍士等浦勢  
志るに系傳三郎林仙志重の

後野市次郎お先手千をん  
下一をんのりも先手此軍將飛  
田大臨身命と惜やん一時のり  
せんとおそく城の中  
石田が加勢川渡たると初梶原  
虎右衛門お新骨と震ひ致し  
少々の大沙神が一時余の活き程  
く眼も二丸も押破らうとす

周情山よら井伴直政の先手木  
俣古伝お徹く申村豊三同く  
孫次郎一をんのりも先手此軍將飛  
新度く攻立られく攻身城と  
下野一房去せり去るに池田輝  
政を領し孫りて口とさるる  
おのひんを捕下れ放すも  
おのり討ちて枝城を攻人も



急なりこの岐年城の案内を  
恙なく志る水の手物曲輪を攻  
中づるべしといひて法人中づるに  
手物も仕務あつたをその手曲  
輪の細さちのよすに論じ  
くふり細くあつた人々と  
りし池田輝政これをもつるふ  
りどののりもてす唯攻めんと

俄に軍会城押してを  
山下ととりくくし報うち  
一さん千城のうしろ辰己の  
うすへおとりくくんと志るふ  
ふこのさち大軍をいふる夏  
をゆい木と生えりて岩角連  
るの地りといひて池田輝政を  
はささうと城へいざんばるんの

西<sup>え</sup>目<sup>め</sup>ウ<sup>ウ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ん<sup>ん</sup>を<sup>を</sup>ウ<sup>ウ</sup>ウ<sup>ウ</sup>と<sup>と</sup>馬<sup>ば</sup>  
戦<sup>いくさ</sup>急<sup>いそ</sup>放<sup>はな</sup>し<sup>し</sup>隈<sup>かま</sup>の<sup>の</sup>山<sup>やま</sup>帯<sup>おび</sup>洞<sup>ほら</sup>ち<sup>ち</sup>子<sup>こ</sup>  
子<sup>こ</sup>小<sup>こ</sup>具<sup>ぐ</sup>足<sup>あし</sup>斗<sup>と</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>進<sup>すす</sup>ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>り<sup>り</sup>  
是<sup>こゝ</sup>より<sup>より</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>老<sup>らう</sup>長<sup>ちやう</sup>建<sup>けん</sup>部<sup>ぶ</sup>内<sup>ない</sup>通<sup>と</sup>  
池<sup>いけ</sup>田<sup>でん</sup>玄<sup>げん</sup>蕃<sup>ばん</sup> 着<sup>ちやく</sup>京<sup>きやう</sup>左<sup>さ</sup>京<sup>きやう</sup> 田<sup>でん</sup>文<sup>ぶん</sup>次<sup>じ</sup>  
帝<sup>てい</sup>太<sup>たい</sup>の<sup>の</sup>由<sup>ゆ</sup>武<sup>ぶ</sup>始<sup>し</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>一<sup>いつ</sup>事<sup>じ</sup>  
寇<sup>こう</sup>竟<sup>けい</sup>乃<sup>の</sup>膏<sup>かう</sup>士<sup>し</sup>三<sup>さん</sup>百<sup>ひやく</sup>余<sup>よ</sup>人<sup>にん</sup>と<sup>と</sup>那<sup>な</sup>  
亦<sup>また</sup>其<sup>その</sup>立<sup>た</sup>ち<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>故<sup>ゆゑ</sup>く<sup>く</sup>我<sup>われ</sup>さ<sup>さ</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>

を<sup>を</sup>多<sup>た</sup>の<sup>の</sup>が<sup>が</sup>ら<sup>ら</sup>池<sup>いけ</sup>田<sup>でん</sup>俊<sup>しん</sup>中<sup>ちゆう</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>  
十<sup>じゅう</sup>楯<sup>たて</sup>色<sup>いろ</sup>斗<sup>と</sup>り<sup>り</sup>檣<sup>かざり</sup>竿<sup>さん</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>舟<sup>ふね</sup>  
先<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>ふ<sup>ふ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>今<sup>いま</sup>は<sup>は</sup>時<sup>とき</sup>  
大<sup>だい</sup>手<sup>て</sup>其<sup>その</sup>軍<sup>ぐん</sup>急<sup>いそ</sup>事<sup>じ</sup>と<sup>と</sup>して<sup>して</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>手<sup>て</sup>  
乃<sup>の</sup>方<sup>かた</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>決<sup>けつ</sup>す<sup>す</sup>又<sup>また</sup>難<sup>なん</sup>而<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>  
敵<sup>てき</sup>の<sup>の</sup>奇<sup>き</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>思<sup>おも</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>  
を<sup>を</sup>階<sup>かゝ</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>志<sup>し</sup>士<sup>し</sup>の<sup>の</sup>一<sup>いつ</sup>人<sup>にん</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>たり<sup>り</sup>  
其<sup>その</sup>中<sup>ちゆう</sup>軍<sup>ぐん</sup>記<sup>き</sup>二<sup>に</sup>篇<sup>ぺん</sup>是<sup>こゝ</sup>の<sup>の</sup>十<sup>じゅう</sup>六<sup>ろく</sup>段<sup>だん</sup>

池清

池清

